

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和元年 6月 14日

秋田県知事  
佐竹 敬久 殿

提出者

住 所 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山字杉沢96番地

氏 名 エコシステムリサイクリング株式会社 北日本工場  
工場長 中島 敬夫  
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0186-30-7211

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	エコシステムリサイクリング株式会社 北日本工場
事業場の所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山字杉沢96番地
計画期間	平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	非鉄金属製造業
② 事業の規模	売上高 12.17億円
③ 従業員数	13名(北日本)
④ 特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	貴金属回収 → 廃酸 → 焼却施設 → 埋立施設 貴金属回収 → 廃アルカリ → 焼却施設 → 埋立施設 貴金属回収 → 引火性廃油 → 焼却施設 → 埋立施設 貴金属回収 → 廃アルカリ(特害) → 焼却施設 → 埋立施設

(日本工業規格 A列(4番))



## 特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

工場長  
(処分責任者)製造部門長  
(発元責任者)管理課員  
(産業廃棄物担当・特別管理産業廃棄物責任者)

## 特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成 30 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
	排出量	12.03 t	88.39 t
	(これまでに実施した取組) 使用薬剂量処理方法あるいは、水洗水量の最適化を図ることで、廃液量の削減を実施。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
	排出量	13 t	100 t
	(今後実施する予定の取組) 今後も同上の取組を行って行く。		

## 特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃アルカリ（特管）は、専用ラインを通して専用ラインに貯留される為、別種の廃棄物が混合する事はない。 ・廃酸（特管）、廃アルカリ（特害）ならびに引火性廃油については、専用タンクに貯留する為、別種の廃棄物が混合する事はない。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後も同上の分別を行っていく。

## 特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

工場長  
(処分責任者)製造部門長  
(発元責任者)管理課員  
(産業廃棄物担当・特別管理産業廃棄物責任者)

## 特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(平成 30年度)実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	特定有害廃アルカリ
	排出量	1.91 t	28.66 t
	(これまでに実施した取組) H29年度の途中から、リサイクル水の活用により、特定有害廃アルカリの排出量を低減している。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	特定有害廃アルカリ
	排出量	1 t	25 t
	(今後実施する予定の取組) 今後も同上の取組を行っていく。		

## 特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃アルカリ(特管)は、専用ラインを通して専用ラインに貯留される為、別種の廃棄物が混合する事はない。 ・廃酸(特管)、廃アルカリ(特管)ならびに引火性廃油については、専用タンクに貯留する為、別種の廃棄物が混合する事はない。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後も同上の分別を行っていく。

## (第3面)

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（平成 30 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 30 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組)			

## (第4面)

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（平成 30 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行なった特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

## 特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成 30 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
	全処理委託量	12.03 t	88.39 t
	優良認定処理業者への処理委託量	12.03 t	88.39 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 全て産業廃棄物は、産業廃棄物処理業者に、処分委託する。		

## (第4面)

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（平成 30 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行なった特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

## 特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成 30 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	特定有害廃アルカリ
	全処理委託量	1.91 t	28.66 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1.91 t	28.66 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 全て産業廃棄物は、産業廃棄物処理業者に、処分委託する。		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
	全処理委託量	12 t	88 t
	優良認定処理業者への処理委託量	12 t	88 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>今後とも全ての産業廃棄物は、産業廃棄物処理業者に処分委託する。</p>			
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度(平成 30年度)実績】		
	特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	100.42	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>平成30年11月排出分より、電子マニフェストシステム(JWNET)を使用。</p>			
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	特定有害廃油
	全 処 理 委 託 量	1.5 t	28 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	1.5 t	28 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
(今後実施する予定の取組) 今後とも全ての産業廃棄物は、産業廃棄物処理業者に処分委託する。			
電子情報処理組織の使 用に関する事項	【前年度（平成 30年度）実績】		
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	30.57 t	
(今後実施する予定の取組) 平成30年11月排出分より、電子マニフェストシステム（JWNET）を使用。			
※事務処理欄			



②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	特定有害廃酸	
	全 処 理 委 託 量	0.5 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0.5 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
電子情報処理組織の使 用に関する事項	【前年度（平成 30 年度）実績】		
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	0	t
(今後実施する予定の取組) 平成30年11月排出分より、電子マニフェストシステム (JWNET) を使 用。			
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。